

四よんひきのきつね

しず
瓜連うりづらの静地区しずちく

おかし、しずの森もりに、四よんひきのきつねの兄弟きょうだいがすんでいました。

一いちばんめ番目はげんたろう、
二に番目はじんじろう、
三さん番目はもんざぶろう、
四よん番目はしろうすけとい
いました。村人むらびとは、いつ
のころからか、そうよん
でいました。



水とみどりにかこまれた、しぜんがゆたかなところで、兄弟なかくくらししていました。

ある日のこと、森の中を歩いていると、二人の村人が話している声が聞こえてきました。

「ちかごろ、きつねが わるさする話を聞いたど。」

「四ひきのきつねじゃあんめえ。あいつらは、わるさはしねえ。しかし、こまったもんだなあ。」
ほかのきつねたちは、わるじえをはたらかせて、人をだましたり、畑をあらしたりと、いたずら





をして人びとをこまらせていたのです。

兄弟ぎつねは、そうだんしました。

「同じきつねのなかまなのに、なんてことを…。」

「人間たちにもうしわけない。」

「わたしたち兄弟は、力を合わせて、人間のた
めになることをやろう。」

いたずらをするきつねのかわりに、よいこと
をしようと、四ひきのきつねたちは自分たちが
できることを考えました。

一番上のげんたろうぎつねが、

「わたしはふるさとの川をまもろう。」

と言いました。すると、じんじろうぎつねが、

「それでは、わたしは野をまもりましょう。」

と言いました。



じょうふくじ 常福寺にあるげんたろう稲荷 いなり



ちゅうしゃじょう らぼーる駐車場にあるきつねの像 ぞう

また、もんぎぶろうぎつねが山やまを、しろうすけぎつねが海うみをまもることになりました。
四ひきのきつねは、昼ひるも夜よるも走はしりまわり、はたらきつづけました。

おかげで、川からはたくさんの魚さかなや貝かいがとれました。野では、米こめややさいの作り方つくかたを教え、たくさんのさくもつがとれました。山では、家いえづくりにつかう土つちや石いしのありかを教えました。海では、大おおきな魚のいばしよを知らせ、しおのつくりかたを教えたのです。兄弟ぎつねの方で、人びとの生活せいかつはゆたかなものになっていきました。

人びとは、四ひきのきつねにかんしゃし、ちいきのまもりがみとしてたいせつにしました。

出典 しゅつてん 筑波書林 つくばしよりん 「瓜連町の昔ばなし」 うりづらまちむかし 楠見松男著 くすみまつおちよ